

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2292300163		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター富士水戸島 グループホームニチイのほほえみ		
所在地	静岡県富士市水戸島343-4		
自己評価作成日	平成23年8月11日	評価結果市町村受理日	平成23年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhvu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2292300163&amp;SCD=320&amp;PCD=22">http://www.kaigokouhvu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2292300163&amp;SCD=320&amp;PCD=22</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年9月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

誠意、誇り、情熱、この言葉の通り誠意と情熱を持って皆さんと家庭的な雰囲気の中でお過ごし頂いています。手作りお菓子や地域のボランティアの受け入れ、地域社会の交流も深めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホームを1つの家庭(家族)ととらえ、地域ボランティアによる演奏会、童謡やオルゴール調CD、独自の体操等の音楽を活用し、管理者をはじめ職員が温かい笑いの多い雰囲気作りで心掛け、一日の流れにメリハリをつける事で、過ごしやすい空間が作られています。女性管理者ならではの心配りで、入居者がいつでも清潔感のある身なりでいられるように、居室の担当者が送る月1回の家族への手紙には、上着から下着まで季節に合わせて足りない物を伝える言葉が添えられています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を忘れないように、毎朝朝礼時に唱和し、共有し、それを実践している。	朝礼や申し送り後、社是、経営理念を唱和し、月1回のホーム会議においても理念について話し合いを持っていますが、ホーム独自の理念については話し合いがされていません。	事業所で目指そうとしている空間作りの為にも、管理者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえたホームとして独自の理念を、全職員で作り上げていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所のオーナー様は運営推進会議の時や日常的に交流を持ち、駐車場オーナー様とも月に一度駐車料金を持っていく際に色々な情報を得たりしている。ホーム周りの散歩時に近隣の方との挨拶は交わしている。近くの公園での交流等。	オーナーを通じて地域と関わりを持っていますが、町内会には未加入で直接の交流は少ないです。散歩時やホーム前をウォーキングする方と挨拶を交わし、地域ボランティアの演奏会には、ポスターを貼って近隣に参加を呼び掛けている。	地域がら町内会の活動は希薄ですが、町内会に加入する等できることから始め、地域の一員としての役割を担う事で、より事業所を理解していただけるように、更なる努力を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々に訪問して頂き、認知症の方との交流の中でその症状を知って頂いたり、入り口のところに認知症に関する冊子を常時置いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてホームでの活動を報告させて頂き、ご意見を伺ったりしている。	活動報告や検討事項以外にも、家族から困っている事、悩んでいる事、疑問等を自由に出していただき、それを次回の議題の一つとしています。職員が質問事項に対し勉強をして、サービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いてご意見やご指導を伺っている。またTEL等で問い合わせを行っている。	来所時に「ほほえみ通信」を渡し、現在の状況を話したり、家族からの質問でわからない事がある場合も、すぐに電話等で問い合わせをしています。用事がなくても市に顔を出し、気軽に話せる関係作りをしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束ゼロのポスターを掲示し、虐待マニュアルをスタッフがいつも見やすいところにおいている。	スピーチロックについては、言葉を置き換えることで対応し、ホーム会議で話し合っています。玄関の施錠もなく、入居者に出て行く気配があれば、散歩に誘う等して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議にて研修会を行い、常に意識してケアの実践を行っている。		

静岡県(ニチイケアセンター富士水戸島 グループホームニチイのほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やケアマネが権利擁護に関する知識を持ち、入居者の人権、尊厳が守られるように常に意識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容を前文音読し、時間をかけ説明をさせて頂き、了承を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営規定は来訪者の受付の机に設置し、いつでも閲覧できるようにしている。個人的にお便り等もお送りし、相談や問い合わせ等のご案内をさせて頂いている。	運営推進会議の中で、疑問点や質問を受け話し合いを行い、反映させています。月末には、各部屋の担当者が1ヶ月の様子を記入した手紙を家族に送り、また、面会時に話を聞き、面会に来られない家族へは電話等もしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議や朝の朝礼時に職員の意見をだし、それについての検討をさせて頂いている。	ケアについて疑問や不安がある時はその場で解決出来るように、ホーム会議等で話し合います。提案があれば職員から企画書を提出し、誰もが活発に発言出来る場を設け、行事食の内容やケアをしやすいローテーションの変更等が実行されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給・希望休を取りやすい環境、能力により時給アップする、キャリアアップ制度の活用等資格を取りやすい環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・外部研修、また介護福祉士を取るために職員一同頑張っている姿が見られる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の会合に参加や職員同士の交換研修を行ったり、GH交流会に参加し情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントを利用し、本人の思いに焦点をあて信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントを利用し、本人の思い、家族の思い・希望・不安等をうかがいながら信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活を参考にしながら、本人のできること、できないことを見極めケアをしていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりとした環境の中で会話をし、生活の中で本人が自己決定できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望・家族の要望等お互いの意見を伺いながら、話し合いの中で良い方法を見つけしていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・友人・知人等いつでも気軽に来訪していただけるようにその雰囲気づくりに努めている。	ホームにいる事が馴染みになりつつある中で、訪問時間に区切りをつけることなく、誰でも気軽に来訪できるようにしています。入居者との話の中で出てきた入居以前の生活状況から、馴染みの人や場所の発見に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しめるレクリエーション、誰でもが入ってこれる話題の提供等に努めている。		

静岡県(ニチイケアセンター富士水戸島 グループホームニチイのほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の様子を関係ケアマネよりうかがったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを利用し、本人またはご家族から必要な情報を入手し課題を抽出しその検討に努めている。	スタッフ間で話しをする時にも入居者に背中を向けることなく小さな気付きを見逃さないようにして、日々の入居者の発する言葉や表情を記録に残して共有し、いつでも振り返りが出来るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを利用し、本人またはご家族から必要な情報を入手し、ホームでの生活の経過は申し送り・介護記録等でその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントを利用し、本人またはご家族から必要な情報を入手し、本人のできること・できないこと等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活に合わせてケア計画を作成し、スタッフとの連携を図り。うまくいくこといかなことを把握しつぎのケア計画に生かしていく。	モニタリングは3ヶ月に1回、状態の変化にはその都度対応し、カンファレンスは担当者、ケアマネ、家族が参加し、欠席の家族へは電話で意見の聞き取りをします。日常の関わりの中での入居者の発言や表情の気付きを反映させ、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア観察や介護記録をチェックし、また申し送り等で本人の状態を知り情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化に応じて色々な他職種との連携をとり、ご家族にご案内するようにしている。		

静岡県(ニチイケアセンター富士水戸島 グループホームニチイのほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとの関係を密にし、そこから広がる更なる資源を見つけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期受診、または往診を行い、体調の把握を行い、健康診断等で病気の早期発見に努めている。	かかりつけ医に家族と受診する時は、事前に情報を伝えます。協力医の受診は職員が同行し、家族へ結果を報告します。協力医は月2回の往診があり、24時間対応できる体制になっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は提携はしていないが、往診して頂いているドクターが24H体制で対応する体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携医は2つあり、1つは入院設備のある医院となっており、定期受診の際には本人のホームでの様子を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議においてターミナルケアについての話はさせて頂いている。	看取りについては状態の変化に関わらず、折にふれて家族の想いを聞き、ホームの方針を説明しています。医療が必要になった場合は、協力医の判断により訪問看護等と連携して支援できるように、内外の研修に参加したり勉強を始めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応のマニュアルがあり、それに従って行う訓練は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練計画に基づき年2回入居様と一緒に訓練を行っている。	東北の大震災を受けて、今年はずでに4回の避難訓練を行っています。夜間の招集訓練では実際に職員が何分まで到着できるかや、オーナーにも参加していただき、車椅子の4名を含む全員を10分位で1階まで降ろす訓練を実施しました。非常食管理台帳で3日分の備蓄品が確保されています。	

静岡県(ニチイケアセンター富士水戸島 グループホームニチイのほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重することは介護をするうえで基本となっているので、それを実践している。	人生の先輩として、いつでも感謝の気持ちを持ち、接するように心掛けています。ケアには場面に応じた声かけや促しをして、失敗した場合にも、いつでも清潔なものと取り替えられる様にトイレにパット等を準備しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分のペースで生活できるようにゆったりとしたスケジュールで生活して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は個々にお好きなことをして頂いている。ホームでは音楽に触れる機会を多く提供しているので、好きな方は参加したり、自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問美容師が散髪を行っている。朝の身支度はできるだけご自分で行っていただき、できない方は支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お絞りの準備や食後の後片付けに積極的に参加して頂いている。	準備や片付けの参加が減ってきた中で、周りの汚れが気になる方には拭いていただく等、出来る力は活かしています。食事に集中できるようにテレビを消して、職員と会話をしながら一緒に食卓を囲みます。カロリー計算された献立を採用していますが、入居者の好みで変更することもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表どおりに栄養のバランスの取れた食事を提供し、また個々の食事量・水分量の把握はしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行って頂いている。習慣となっている。		

静岡県(ニチイケアセンター富士水戸島 グループホームニチイのほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助以外の方はトイレで排泄を行っている。	排泄パターンを介護記録でチェックしながら、利用者ごとに声掛けや促しをして、尿意のない方もトイレでの排泄を支援しています。トイレの目印が低い位置にある事で、トイレの場所がわかりやすいようになっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように気をつけている。主治医による便秘予防の服薬や漢方等のお茶を定期的に提供させて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に一度の入浴を設定している。本人の体調・血圧・体温によりできないときもある。	車椅子利用者が4名で二人介助のため、毎日全員入る事は困難ですが、失禁があった場合等は優先的に入浴しています。一人毎に湯張りして、拒む方や、入ったことを忘れてしまう方にも個々に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活において、束縛なく自分のお好きな時間に休憩を取り、その援助をさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスのないように管理し、服薬は医師の指示通りに行い、薬剤情報も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の趣味は確認しているので、家族に準備して頂いたり、お小遣いにて購入したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くの公園へ散歩に行ったり、またご家族にも協力してもらい戸外へ連れ出してもらったりしている。	近隣を散歩したり、弁当持参で公園へ出かけたりしています。月1回の外食は家族にも呼びかけていますが参加は少なく、職員と小グループに分散して行っています。家族と一緒に墓参りや、親戚宅、温泉一泊旅行に行く方もいます。	



静岡県(ニチイケアセンター富士水戸島 グループホームニチイのほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人にはお小遣いがあり、本人に必要なものは使ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたりすることはあまりない。本人の訴えが強い場合はかけることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間には毎月季節を感じる作品等を置くようにしている。清潔な環境ですごして頂けるように努めている。	ホーム内はエアコンによって温度調節され、誰もが知ってる童謡のCD、オルゴール調CDを流す等して居心地良く過ごせる工夫がされています。キッチンから良い匂いが漂い、おやつを呼びかける声に答えて、食卓に集まる入居者の動く音に、何気ない日常の生活感があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で談笑したり、日のあたる場所に椅子を置きくつろいでもらったり、ゆっくりとした環境を壊さないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を持ち込み、思い出の写真や誕生日の寄せ書き等の飾り、其々の個性的な居室となっている。	転倒の危険がある入居者は、床にマットレスを敷き、持込の荷物を少なくする等、家族と相談しながら安全に過ごせる工夫をしています。今まで好きだった折り紙の飾りや家族写真等を飾り、居心地の良い空間が作られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内ではバリアフリー、廊下には手すり等も設置されており、本人が安全で自立した生活が送れるように職員全員で努めている。		